

1 学校教育目標
共 学 ・ 共 考 ・ 共 創 （ 共に学び・共に考え・共に創る ）

2 学校経営ビジョン
『教師の姿』 ○生徒とともにあり、教育愛に溢れる教師 ○笑顔と活気のある教師 ○指導力向上のための自己研鑽に励む教師 ○信頼と組織力のある教師
『生徒の姿』 ○意欲的に学習する生徒 ○自他の生命を大切にする生徒 ○根気強く、心身を鍛える生徒 ○礼儀正しく、思いやりのある生徒
『学校の姿』 ○いきいきと元気のある学校 ○明るく、美しい学校 ○安全で安心な学校 ○信頼される学校

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>① 学力向上(家庭教育の充実)</p> <p>② 生徒指導の充実(不適応対策・不登校対策・豊かな心の育成)</p> <p>③ ICT利活用教育の推進</p> <p>④ 小中一貫教育への推進</p>	<p>○職員相互が信頼しあう職員集団を築き、同僚生・協働性を発揮できる質の高い教師集団づくりを目指してきた。また、生徒一人ひとりを大切に、教師と生徒、生徒と生徒が信頼関係を持ち、相互に認め合う学級文化を築くことを目標にしてきた。その取り組みの結果、授業力の向上、生徒指導・教育相談における共働の指導体制強化、心の教育の充実、小中一貫教育の推進等に成果を上げることができた。</p> <p>○小中一貫校開校に向けて準備を進めてきているが、今年度12月には新校舎、新管理棟が完成し、一貫校開校への最終段階に入る。そのため、これまで行ってきた小中合同活動をさらに工夫、改善し、単に小学校と中学校が合体するのではなく、9年間の教育活動が連続した新しい学校を創り上げていく必要がある。不登校対策では、共働の指導体制は充実できたものの完全不登校生徒が新1年生1名、新3年生2名が在籍している状況である。また、家庭教育においては、家庭学習が定着できていない生徒について、意識面では改善がみられたが、実際の取り組みには結びついていない状況がある。</p>

5 総括表				
① 学力向上				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の授業力向上	・小中連続した指導法の研究	・小中職員全員参加による授業研究会を実施し、小中連続した指導法での授業が展開できるようになる。	・学習メソッドをもとに、Aつかむ→Bさぐる→C確かめる→Dまとめる→E生かすの授業展開を日々実践する。また、言語活動の充実を図るとともに学びあい活動を随時授業に取り入れる。
教育活動	●学力向上	・学校教育と家庭教育の連携強化	・県および全国学習状況調査において、県の通過率を上回る。 ・12月実施の評価テストにおいて、4月実施の課題点の改善を図る。 ・家庭学習の定着をさらに推し進め、保護者アンケートにおいて、「家庭学習習慣ができています」項目を75P以上とする。	・サマースクールや放課後学習会において、個別指導を行い、学習への意欲喚起、学習の仕方についてアドバイスを行う。 ・月曜日をノ一部活動とし、家庭学習定着の特化日に位置づける。 ・朝のスキルアップテストや週末課題に取り組ませる。 ・学校と家庭が連携し、「家庭教育の指針」の実践を推進させるため、強化週間の設置やアンケート調査を行い意識強化を図る。

② 生徒指導の充実				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○不適応対策・不登校対策の充実	・不適応行動の未然防止と完全不登校の解消	・不適応行動を未然に防止する。(発生件数0をめざす) ・年度当初に完全不登校である生徒3名を、年度内に登校できるようにする。	・生徒指導委員会と教育相談委員会を各週に開催する。 ・配慮を要する生徒の情報のデータベース化による、共通理解と適切な支援を推進する。 ・今年度新しく配置されたスクールサポーター、スクールソーシャルワーカーとの連携を図り、生徒の心の安定を図る。 ・学期当初や長期休業明けの教育相談体制と家庭との連携強化を図る。
教育活動	●いじめの問題への対応	・いじめの未然防止・早期発見・早期改善	・今年度のいじめ発生件数を0にする。	・生徒会活動によるいじめ0宣言を行い、生徒どうしでのいじめに対する意識を高める。 ・道徳の時間において、いじめについてじっくりと考える授業を設定する。 ・教師による生徒の日々の行動観察を強化する。(情報交換の強化) ・生活アンケートを毎月実施し、いじめの項目を設定する。 ・スクールサポーター、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーへ生徒が相談しやすい環境をつくる。
教育活動	●心の教育	・豊かな心の育成	・QUテストの学級満足群の割合が、1回目実施より2回目実施が高くなるようにする。	・生徒会が主体となり、声刈中『什の掟』を全校生徒に取り組みせ、定着させる。 ・道徳の指導の工夫や多くの体験活動、多彩なゲストティーチャーの講話など、これまでの指導に工夫や改善を行う。
③ ICT利活用教育の推進				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●ICT利活用教育の推進	・電子黒板を利活用した効果的な授業実践	・電子黒板を利用した授業を全体の80%以上とする。 ・授業を楽しんでいる生徒の割合を5%アップする。 ・全国調査で分析した課題点を、12月評価テストでアップする。	・ICT推進リーダーを中心に、支援員の協力を得ながら、日常的に「ミニ研修会」を行い、機器操作と効果的な利用法の習得を行う。 ・校内研究の授業では、ICT機器を利活用し、その活用方法について全職員で研究を深める。
④ 小・中一貫教育への推進				
	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○小中一貫教育	9年間を見通した教育の推進	・研究テーマや研究組織を統一する。 ・学習メソッドの改善版を作成する。 ・家庭学習の手引きの改訂版を作成する。	・小中を合体した研究組織(学力向上研究会・交流研究会)による、一貫教育に向けた研究や取り組みを行う。研究テーマや生徒指導、生徒会・児童会などの統一を目指す。 ・兼務職員による小→中、中→小への授業を年間通して行う。
学校運営	○開かれた学校づくり	・学校情報の発信と学校・PTA行事への参加率の向上	・学校の情報発信に対する保護者の評価を80ポイント以上にする。 ・学校行事、PTA行事参加数を昨年度より増やす。	・学校からの情報発信の充実。(学校便り発行、学年・学級通信発行、学校HP更新の回数を昨年度より増やす。) ・地区青少年や民生委員会への参加、情報交換を行う。 ・魅力ある行事の創造を行い、広報の仕方を工夫する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・健康・安全教育の推進	・健康安全に係る教育活動の充実を図る。 ・感染症への対応に万全を期し、発症が確認されても感染を最小限に防ぐ。	・防煙、性教育、薬物乱用防止等の講話を実施する。 ・年間を通して、感染症に対する危機管理と対応を啓発する。
教育活動	○読書推進	・読書活動の推進	・学校図書館年間1人当たり貸出数を35冊以上にする。	・子どもの読書を推進する活動(読書マラソン、図書館まつり、読書週間等)を充実させる。

●は共通評価項目、○は独自評価項目